

# 大学生と地域活動

——大学がまち・まちが大学となるために——

今村方子

## はじめに

平成 25 年度梅光学院大学子ども学部第 9 回子ども未来会議にて、「大学生と地域活動」～大学がまち・まちが大学となるために～と題してシンポジウムを開催した。学生時代に地域活動経験のある卒業生と 4 年生計 5 名をシンポジストとし、彼らが地域活動を展開して得たこと、現在の職業や生活につながっている点などについて発表してもらい、大学生が地域活動をすることの意義について、協議した。

本稿は、シンポジウム設定の背景となった大学生の地域活動実践を紹介し、その成果や意義を問おうとするものである。

## 1. 大学生と地域活動について

総務省は、2010 年 12 月、地域実践活動に関する大学教員ネットワークを設立し、趣旨として以下のように言っている<sup>1</sup>。

近年、大学の教育・研究活動において、教員や学生が地域の現場に入り、地元住民とともに、地域おこし活動を実践する取組が増加傾向にあります。

こうした取組は、大学に集積する地域活性化に関する知識情報やノウハウを現場に活かすものであるとともに、地方で不足する若い人材力を地域の活性化に活用するものでもあります。さらに、学生や地元住民を地域づくり人材として育成することにつながることに加え、大学の教育・研究活動へのフィードバックにも大いに貢献するものであるなど、わが国の地域力の創造に欠かすことのできないものと考えられ、さらなる充実が望まれています。

しかし、こうした取組も、現時点では、大学教員の個人的な人脈等に依拠し、地方公共団体や地元住民との連携に必要以上の労力や時間を要するケースがあるとの指摘もあります。

今般、大学教員のネットワークを構築し、関係者間の連携協力をサポートする体制をとるべく、「地域実践活動に関する大学教員ネットワーク」を立ち上げることといたしました。本ネットワークは、地方公共団体や地域づくり団体との連携・調整、教員相互の情報交換等を円滑化する仕組みとして、各地の大学の教員・学生が現場に飛び出して地域おこし活動を実践することを支援し、地域活性化、地域の人材育成及び大学の教育・研究活動の質の向上を目指します。設立。情報交換や調査、マッチング支援、シンポジウム開催など。運営は大学教員のボランティア（事務局：総務省）。

そして 2013 年 3 月 6 日、政策研究大学院大学で「地域実践活動に関する大学教員ネットワーク・フォーラム」を開催、「域学連携」地域づくり活動に対する特別交付税措置の施行、「域学

連携」について、平成 23 年度にシンポジウムを 2 回開催（2011 年 8 月、2012 年 2 月）。地域と大学等の連携による地域力の創造に資する人材の育成と自立的な地域づくりを推進するための仕組みを構築し、地域活性化を通じた日本経済の底上げを図るために、平成 24 年度補正予算 2.1 億円（国費）。地域と大学等の連携のもと、滞在型の地域づくり活動に取り組むべく環境整備を進めようとする地域の取組を支援するため、平成 25 年度 2,000 万円予算（国費）などを実施し、「域学連携」地域づくり活動を推進するための取組みをすすめている。

「域学連携」地域づくり活動<sup>2</sup>とは、大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民や NPO 等とともに、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を言う。活動事例は以下のとおり。

（活動事例）

- 地域資源発掘、地域振興プランづくり、地域マップづくり、地域の教科書づくり
- 地域課題解決に向けた実態調査
- 地域ブランドづくり、地域商品開発、プロモーション
- 商店街活性化策検討、アンテナショップ開設
- 観光ガイド実践、海外観光客向けガイドブックづくり
- 環境保全活動、まちなかアート実践、子ども地域塾運営、高齢者健康教室運営 など

\* 「域学連携」地域づくり支援活動の取組事例<sup>3</sup>

また、意義と課題認識として以下のように記している。

「過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することは、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することにつながるとともに、地域に気づきを促し、地域住民をはじめとする人材育成に資するものであります。

こうした取組は、地域（地方自治体）及び大学（大学生・教員）双方にメリットがあり、さらなる充実が望まれていることから、連携事例の収集・整理、そのノウハウの確立、継続的に実施できる仕組み作りが求められているところです。

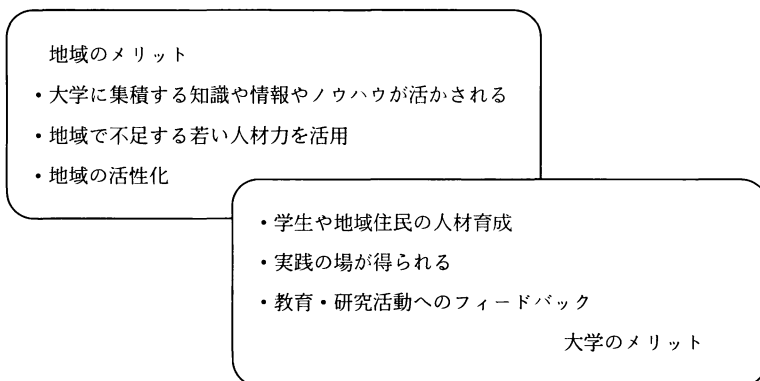


Fig. 1 地域と大学におけるメリット

地域と大学双方のメリットをとおして「学生や地域住民の人材育成」となる取り組みと言えよう。

## 2. 学生による地域活動実践紹介

梅光学院大学子ども学部子ども未来学科子どもと音楽ゼミ（今村方子ゼミ）でも、平成23年（2011）7月S市立大学「地域福祉論」授業で『つどいの広場「梅光ほっとみーる」にみる子育て支援』と題した講演を行い、それを契機としてN教授「地域福祉論ゼミ」学生と共に、下関市唐戸町のまちの活性化事業として、学生たちができることを模索し協力することとなった。

「子どもと音楽ゼミ」は、将来保育・教育現場で役立つ表現活動体験をとおして、子どもを対象とする活動のために適する教材選択ができたり、そのために自分の得意を発見し、さらにその力を向上し活用することができるための卒業研究をすることを目的に、以下に示す2カ年のゼミナール活動を展開してきた。

表1 「子どもと音楽ゼミ」2カ年のゼミナール活動

学年・期	目標	活動内容
3年前期	1) 対象を特定した教材体験により、教材のもつ力を認識する（教材理解）。 2) 自分なりに把握した教材観を特定の対象に向けて実践する（対象理解を深める）。 3) 特定の対象に対する教材観、子ども観をもつ（指導観の獲得）	対象を意識したプログラム作り（未満児）とその実践① ～学部附属機関（子育て支援センター）での実践
3年後期	1) 対象を特定した教材体験により、教材のもつ力を認識する（教材理解）。 2) 自分なりに把握した教材観を特定の対象に向けて実践する（対象理解を深める）。 3) 特定の対象に対する教材観、子ども観をもつ（指導観の獲得）	対象を意識したプログラム作り（幼児・小学生・一般）とその実践② 学部附属機関（梅光学院幼稚園）での実践 附属機関外での実践
4年	テーマ設定に基づく実践活動や研究活動をとおして、子ども観、教材観、指導観及びその実践力を獲得する	実践活動から問題点・課題を見出し卒業研究テーマの設定、研究活動、卒論執筆、卒論発表

2カ年の研究活動をとおして、学生たちは、得意な楽器を持つ・得意分野を発見する・編曲力の向上など、自分たちの可能性への挑戦をする、併せてチームワークの形成や向上をなすことができた。また、当初は人前では極度に緊張し思うような表現ができなかった学生たちが、積極的に地域の人々との交流を求め表現していく姿は事前には見られない光景であった。また、街の人々にとっても「梅大コンサートはまた来るかね。」などの声や他の街の行事参加への依頼など学生たちに期待する声が聞かれるようになった。学生たちの新たな自己創造と街の活性化への貢献が少しでも果たせたかと思う。

以下は、各年度における主として街なかでの研究実践活動の概要である。

(1) 平成 23 (2012) 年度 (3 年次生)

① 2011 年 10 月 15 日<唐戸秋まつり参加>

初の S 大生との合同イベント開催ということで、学内での事前交流会や商店街の人々との準備など降ってわいた企画実施に学生一同緊張して取り組んだ実践であった。終了後打ち上げ反省会に参加はしたものの指導教員がつかないでやらないと話してもできない程であった。

目的：子どもからお年寄りまで楽しんでもらえる、ダンスや歌を中心とするプログラムを作成し、一緒に演奏会を楽しむ。



Fig. 2 演奏を盛り上げる S 大生；崖の上のポニョ



Fig. 3 コンサート全景

② 2012 年 4 月 7 日 唐戸桜まつり協賛コンサート

二度目の公演とあって、少しずつ街中に溶け込む姿が垣間見られた。

目的：地域の人々が明るい気持ちになり、明日も頑張ろうと思える演奏をする。

\* 〈演奏プログラム〉 カントリーロード／君をのせて／やさしさに包まれたなら／となりのトトロ／勇気 100% など、大人や子どもにも楽しめる曲演奏。新 3 年生も合流。



Fig. 4 上演バンド名掲示をつくる



Fig. 5 地域の人々と街頭宣伝



Fig. 6 メンバー唐戸 100 円市散策



Fig. 7 お客さんには、毎度の人も……

## (2) 平成 24 (2013) 年度 (3 年次生)

平成 24 年度 3 年生は、より唐戸町への理解を深めるべく、平成 24 年 6 月 5 日 (木) 唐戸町商工会議所理事長の N さんの案内で唐戸町内の視察を実施。昔は繁栄していた街のさびれたたたずまいに何かを感じたようであった。

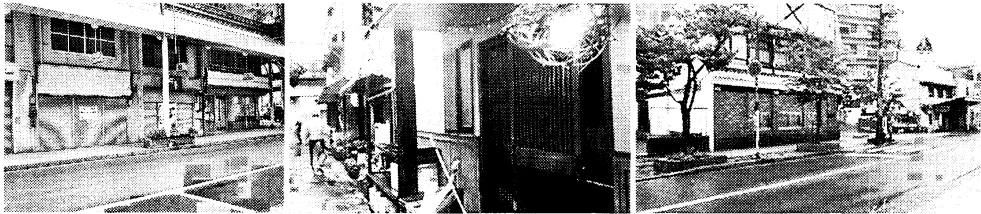


Fig. 8 テナント募集のメイン通り・さびれた飲食街等

### ① 2013 年 6 月 16 日 (土) 唐戸町 100 円市協賛イベント

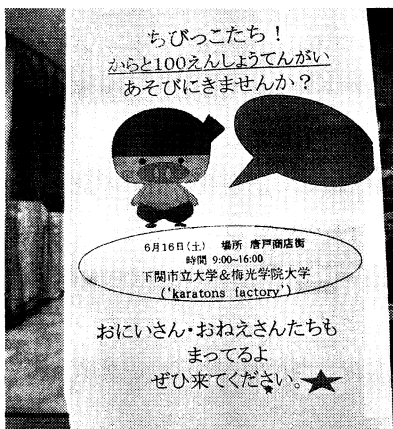


Fig. 9 手作りのポスター掲示



Fig.10 梅大オリジナルキャラ「梅トン」ぬりえコーナー



Fig.11 いつもの老夫婦かぶりつき観客に



Fig.12 大人気だった魚釣りコーナー



Fig.13 打ち上げ参加（地域の人々+S大生と）

② 平成 24 年 8 月 27 日（月）、28 日（火）

10月のイベント開催に向けて2泊3日の夏期合宿を大学附属施設（梅光多世代交流支援センター）で実施した。

目的は、〈これで完璧、大成功「つどいあいの商店街!!（唐戸 100 円商店街）」プランづくり〉様々のプラン提出。2日目には唐戸商店街商工会議所理事長のNさんにもコンペ審査委員として加わってもらい、合作「作ってみよう！自分だけの MY 楽器+みんなで歌おう、聴いて楽しもう」作品を企画立案することになった。合宿感想として、“10月の唐戸商店街での企画について、合宿を行う前までは正直「やらされている」という気持ち……この合宿を通じて他のメンバーの発表内容を聞いたり、話し合ったり、自分の企画の良い所・悪い所を改善していったり、他のメンバーと話を進めていく中で、本当に自分のしたいことは何なのか、どうしたいのかなどが見えるようになり……本当は乗り気でなかった合宿だったが、ゼミの大きな一歩を踏み出すことができた”という意見も出てくるようになった。

そして、自分たちの企画に責任を持ち、指摘された部分を改善して、よりよい活動になるようにゼミの皆で頑張っていくことになった。

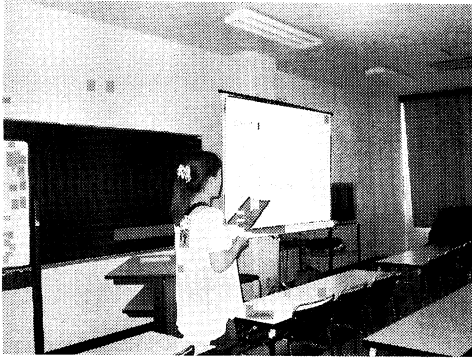


Fig.14 プランコンペ

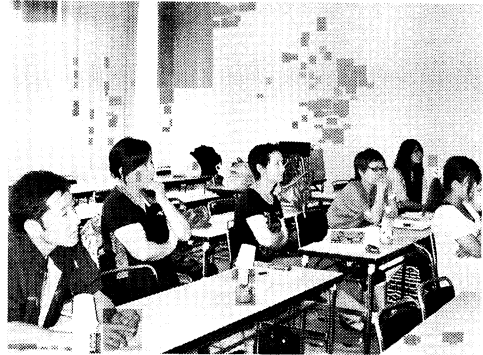


Fig.15 唐戸町商工会議所理事長も審査委員

③ 平成 24 年 10 月 21 日 (土) 唐戸町秋まつり協賛コンサート+段ボール迷路



Fig.16 オリジナル読み聞かせ絵本実践

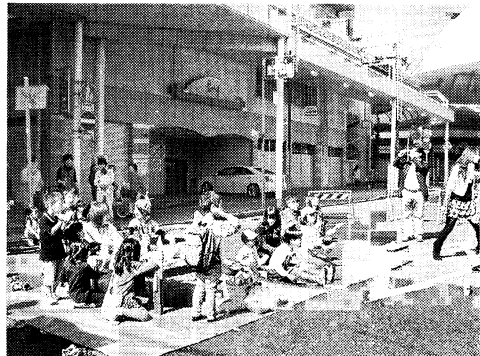


Fig.17 子どもたちも手作りマラカスで参加

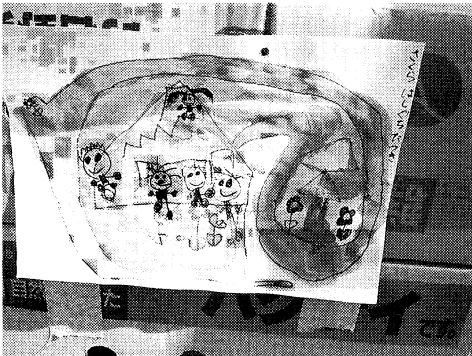


Fig.18 市内幼稚園児の未来の街の絵も協賛



Fig.19 S 大生による段ボール迷路  
(梅大スペースと隣り合わせの場所に設置)



Fig.20 コンサート風景



Fig.21 3・4年上演スタッフ写真

### 3. 成果と課題—新しい公共性獲得に向けて—

以上、平成23年～平成25年にかけて唐戸町で行った活性化事業協賛まちなかコンサート概略を追ってきた。実践のきっかけは先行き不安のなかから始まったが、振り返ってみると次の様な様々の成果が認められる。

- (1) 大学での学びを実践することによって、学びの意味と実践上の問題との関係を発見し、より対象に応じた柔軟な対応ができる力を獲得した（演奏楽曲の選曲や聴衆参加型の企画など）。
- (2) 学生という若い人材が地域の人々を集める力を持っており、期待されていることが学生たちに確認できた（最初は行動しようとしなかった街中散策や地域の人々との立ち話など年齢を超えた交流があちこちで誕生した。宴席でのマナーなども学習した。）。
- (3) 学生と地元住民とが、共に共通の課題に取り組み意見を交わすことで、地元住民においては若者の街の捉え方をすることとなり地域づくりのヒントや発想を得ることができ、学生たちは自分たちが現在学んでいることと現代の生活やその諸問題との関係を見出すことができ、今後の研究活動への展開などに反映できた。
- (4) 関わった研究者（指導教員）においても、学生指導の新たな指標としての情報入手や研究課題を見出すことができた。
- (5) 地域の再創造という現代的問題解決において、学生・地元住民・研究者三者立場の違いそれぞれがそれぞれのスタンスに立ち課題解決に向かうには、三者間のつながりが貴重な解決の方途となることが明らかになった。

子ども未来会議シンポジウム登壇者（学生時代地域活動をした卒生）の発言を紹介する<sup>4</sup>。  
 “大学時代の活動が今の私に生きている……小学校に勤務する私……子どもとのつながり、保護者とのつながり、学校間のつながり、地域で働く人とのつながり……とにかく多世代との関わり合いが重要！ 学生の枠だけにとどまっていたは、いけない！ つながりをつくっていくことが



未来の自分を助けます。”(Nさん)。

また、地方銀行に勤務するS君は次のように地域との関わりによる成果について説明している。『地域活動の中で、「様々な立場の人」と関わり……次のような課題にぶち当たり……「様々な価値観を持つ様々な立場の人が一丸となって街おこしをしよう」というのは困難だ。……この課題にぶち当たり、苦労したからこそ、学べたこと……地域活性化のためには、私自身が様々な立場の人と関わる中様々な立場の人との“つながり”が必要だそこで、“つながり”の創造によって「地域活性化」と「岡山の人々の幸せ」を実現する銀行員になる。そして、「様々な立場の人」の間に立ち、“つながり”を創造する。』という社会人としての自分の立ち位置を明確にした。さらに次のように位置付けている。『あいまいだった将来像でしたが、明確な目標ができた。いろんな価値観を持った人と関わることで、自分にはない考え方の発見があります。それがすべて正しいわけではありません。しかしそこには「見習いたい!」「これは私と違う!」などと考える機会が生まれます。その取捨選択は、ひとそれぞれ。それがあいまいな将来像を明確にしていくのです。……人と関わる機会は、身近にたくさんあります。日常生活のなかで広い視野を持ち、いろんな場所に顔を出し、人と話してみてください。そこに自分にはない新たな発見があります。その発見が自分のやりたいことや将来像などを確立してくれるきっかけになる』

グループホーム勤務のHさんは、在学中の介護施設アルバイトの中で自分の進路に確信が持てたこと、また、現在の仕事に大学時代の地域住民との交流活動をした梅ヶ峰演習林研修を活用して介護計画を起案・実施、「今後もこうした経験を介護に活かしていきたい。」事務機器会社勤務のNさん、在学中は「下関市市報のキッズページ」を制作。「子ども向け」であることを意識した取材活動を心掛けてきたが、そのことで、地域住民の多様性を認める柔軟性が身についたという<sup>5</sup>。

長い引用になったが、地域に出向き、地域を知り、理解を深める体験の意義がよくあらわれている。

## おわりに

今日、環境問題をはじめとする様々の閉塞状況の打破をめざし、持続可能な社会の実現を求め「一人ひとりを包摂する社会」の実現が叫ばれている。その実現の方途の一つとして、「新しい公共」という考え方が提唱されてきている<sup>6</sup>。民主党政権下で鳩山内閣総理大臣施政方針演説が口火を切ったものではあるが、日本の地域や民間の中にあったが、今や失われつつある「公共」を現代にふさわしい形で再編集し、人や地域の絆を作り直すことを企図した考え方である<sup>7</sup>。

“新しい公共”とは、人々の支え合いと活気のある社会。それをつくることに向けたさまざまな当事者の自発的な協働の場。「新しい公共」が作り出す社会は「支え合いと活気がある社会」である。……すべての人に居場所と出番があり、みなが人に役立つ喜びを大切にする社会であるとともに、その中から、さまざまな新しいサービス市場が興り、活発な経済活動が展開され、その果実が社会に適正に戻ってくる事で、人々の生活が潤うという、よい循環の中で発展する社会

である。” “「新しい公共」によって「支え合いと活気のある」社会が出現すれば、ソーシャルキャピタルの高い、つまり、相互信頼が高く社会コストが低い、住民の幸せ度が高いコミュニティが形成されるであろう。さらに、つながりの中で新しい発想による社会のイノベーションが起こり、「新しい成長」が可能となる” という。

「域学連携」となるべく、大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民等とともに、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動の一端を実施してきたが、とても一部の教員でできる代物ではないことも明らかになった。地域と大学双方のメリットを願い、「学生や域住民の人材育成」となる取り組みとして大学教員のみならず大学自体も率先して取り組むことが、大学の抱える今日の学生の社会人基礎力不足の解消にも大いに役立つに違いない。今後さらに研究継続し、「大学がまち・まちが大学となるために」となるための仕組みの形成や実践方法の検討・整理等々に繋げていきたい。

注

- 1 総務省 [http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/kyoin\\_network/01.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/kyoin_network/01.html)
- 2 [http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/ikigakurenkei.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/ikigakurenkei.html)
- 3 [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000151388.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000151388.pdf)
- 4 子ども未来会議シンポジストメモより
- 5 子ども未来会議議事録より
- 6 内閣府「新しい公共」の考え方 <http://www5.cao.go.jp/npc/attitude.html>
- 7 内閣府 新しい公共 New Public Commons  
[http://www5.cao.go.jp/npc/index.html?utm\\_source=www.domtail.com](http://www5.cao.go.jp/npc/index.html?utm_source=www.domtail.com)

【資料】「新しい公共」宣言（平成 22 年 6 月 4 日第 8 回「新しい公共」円卓会議資料）